

研究区分	教員特別研究推進費 地域振興
------	----------------

研究テーマ	褐藻類抽出エキスの非感染性膀胱炎への応用				
研究組織	代表者	所属・職名	薬学部・講師	氏名	伊藤 由彦
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	薬学部・講師	氏名	伊藤 由彦

講演題目	褐藻類抽出エキスの非感染性膀胱炎への応用
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【背景・目的】非感染性膀胱炎である間質性膀胱炎（IC）は、頻尿、尿意切迫感、膀胱の痛みを主症状とする膀胱の非感染性の慢性炎症を示す難治性膀胱炎で、近年関心が高まっている。決め手となる治療法がなく生活の質が著しく低下するため治療薬の開発が望まれている。一方、アカモク (<i>Sargassum horneri</i>) は、日本近海の浅海に分布する海藻である。以前より、東北地方で郷土食として食されており、近年では、ポリフェノールやフコイダン、フコキサンチン、食物繊維を豊富に含むことから、健康によい機能性の高い食品として注目を集めている。本研究ではアカモクよりエタノール抽出したエキスの新たな機能性の検討とその作用メカニズムの解明を目的とし、Cyclophosphamide (CYP) をラットに投与して作製される膀胱炎症モデルラットでの作用検討を目的とした。</p> <p>【方法】CYP による急性膀胱炎症モデルラットを作製し、排尿機能に関与する膀胱ムスカリン性受容体及び P2X 受容体の変動を受容体結合実験により測定した。また、ウレタン麻酔下シストメトリー法を用いて、in vivo で排尿機能を測定した。この場合、単回投与による、頻尿の抑制作用の検討および、長期投与による膀胱機能への影響の2つを評価することが可能となる。</p> <p>【結果】CYP 投与により膀胱ムスカリン性受容体および P2X 受容体は減少した。また、CYP 投与により、単位時間当たりの排尿量に影響はなく、排尿回数が増加し排尿間隔を短縮したことから、膀胱容量の減少による頻尿が観察された。</p> <p>【結論】CYP の投与により急性膀胱炎症モデルラットを作成することで、膀胱炎症に対する各種物質の作用を検討することが可能となった。このモデルを使用して、本課題の褐藻類抽出エキスの非感染性膀胱炎への作用について検討を行いたい。</p>